

提出日：平成 21年12月24日

## 平成 21 年度 情報教育研究集会参加 報告書

鈴木 大輔（東北大学大学院情報科学研究科 教育研究支援者）

<b>調査・場所</b>
東北大学 川内キャンパス
<b>日程</b>
2009 年 11 月 14 日（土）・15 日（日）
<b>参加者</b>
静谷 啓樹I(教授)(※ スタッフ)・窪 俊一(准教授)・鈴木 大輔(教育研究支援者)・河野 賢一(情報科学研究科博士課程 1 年)
<b>目的</b>
情報倫理教育および情報リテラシー教育に関する最新の研究の動向を調査するため。
<b>概要および成果</b>
<p>情報教育研究集会の 1 日目は“特別講演”，2 日目は“分科会プログラム”として口頭講演セッションやポスターセッションが行われた。ここでは主に 2 日目・口頭発表セッションの“セッション G・情報倫理教育”の参加報告を行う。</p> <p>本セッションでは以下の発表があった。主に情報倫理教育の教材や教育の効果測定に関する研究，情報倫理に関する意識調査に関する研究が多く見られた。</p> <p>前者に関する研究発表では，情報倫理教育に関する動画配信を学内に限定されていたアクセスを，ウェブストリーミングサーバーを導入することによって，学外からのアクセスも可能にした例や，情報倫理教育のビデオ教材をマンガ化し，双方を用いた学習プログラムの開発を行った例などが報告された。これらの研究発表より，情報倫理教材をいかに身近な存在にし，学生や教員に使ってもらおうかといった，アクセス環境の整備が重要であることがわかった。</p> <p>一方，後者に関する研究発表では，青少年のネット利用実態の自己報告と保護者側からみた認識との間で，“ブログ・掲示板の閲覧”，“ブログ・掲示板に書き込みをする”，“SNS などのサイトの利用”などの項目で認識に乖離が見られたとする研究発表や，アジア各国における情報倫理観に違いが見られ，それらの法制度と関連することが見られたとする研究報告などが行われた。これらの研究発表より，OECD の個人情報に関する原則との対応を考慮しながら，各国間の違いを検討する必要があると思われる。</p> <p>本研究集会に参加することによって，情報倫理に関する最新の研究動向を得ることができた。特に，情報倫理教育の教材開発への新しい視点や，情報倫理意識の国際比較に関する最新の動向を知ることができ，本プログラムの情報倫理教材開発や意識調査の研究に反映できると思われる。</p>